

応援歌 「とききたり」

一、さあ 闘いのときがきた
相手にとつて不足なし
こころは凜と涼やかに
一刀両断 敵を討つ

オーオー 名門塚口の
真価を示す この力
押せ 押せ 押せ
塚口中学 わが母校

二、さあ 挑戦のときがきた
世界を拓く若者は
辛苦を求め 日々励み
己に勝ちて 栄光を

オーオー 名門塚口の
真価を示す この力
行け 行け 行け
塚口中学 わが母校

三、さあ 旅立ちのときがきた
希望を胸に飛び立てり
一眼遠く いにしえへ
もう一眼は あしもとへ

オーオー 名門塚口の
真価を示す この力
飛べ 飛べ 飛べ
塚口中学 わが母校

逍遙歌 「絆」

この街で この場所で
長い長い月日がたちました
たくさんの笑顔 たくさんの涙
ずっとこの場所で見守ってきました

春になれば別れと出会い
夏になれば友と語り笑い
秋になれば学び
冬になり泣いて

また春が来て新たな君と出会う

まだ見ぬ未来のその先へ
期待や不安もきつとあるだろうけど
いつでもここで見守ってるから
君の思う道を進めばいい

大丈夫いくつになっても
絆はつながってるから
いつでもここで待ってるから

今しか過ごせない時間を
若人たちの青き春を
そしてこれから先の未来を
どうかどうか輝くものになれよと

君にしか見えない道がきつとあるから
恐れることなく突き進もう

《 応援歌「とききたり」作成趣旨 》

塚口中学校創立70周年という節目の年に、子どもたちが今後の人生の中で、いろいろな苦しいことや辛いことがあっても、それに負けず、勇気を奮い立たせ、果敢に立ち向かっていく心の支えとなるようなものを贈りたいという願いから、応援歌の制作に取り組みました。

また、大人になり、年をとっても、同窓会などで肩を組んで歌い合える塚口中学校の精神や心意気を込めたものにしたいという想いもありました。

《 「とききたり」の歌詞に込めた想い 》

子どもたちはこれからの人生の中で、人生を左右するいろいろな分岐点に遭遇します。そのときに、背中を押し勇気づけることができる歌詞としました。応援歌「とききたり」は、「勝負の時」「決断・挑戦の時」「旅立ちの時」の3つの分岐点を想定して応援しています。

1番の歌詞は、「勝負の時」です。相手に対して凜とした涼やかな態度で臨み、勝負を決するということです。また、歌詞には書けませんでした。勝負の後で相手を敬い、お互いの健闘を称えあうというスポーツマンシップの精神も込めています。

2番の歌詞は、「決断・挑戦の時」です。一番身近にいる自分自身に負けずに、日々努力に励んで栄光をつかんでほしいという願いを込めています。「辛苦を求め」という歌詞は、戦国武将の山中鹿之助が『我に七難八苦を与えよ』と言った言葉をイメージしています。

3番の歌詞は、「旅立ちの時」です。京都帝国大学哲学科卒業の森信三という人の「一眼は遠く歴史の彼方へ 他一眼は脚下の実践へ」という言葉を参考にしたもので、『過去・現在そして未来に想いを馳せ、「いま、ここ」を大切に生きる』というメッセージを込めています。

また、「時を守り 場を清め 礼を正す」という本校の学校生活の基本も森信三語録からのものです。

《 逍遙歌「絆」作成趣旨 》

子どもたちが日常においても口ずさめるようなものとして、逍遙歌「絆」の制作にも取り組みました。卒業した塚口中学校生はみんなひとつの絆で結ばれており、世界のあらゆる場所で活躍しているものの出発点は塚口中学校であり、塚口中学校はいつでも君たちを応援しているという気持ちで制作しました。なお、歌詞には本校69期生徒会役員が創出したキーワードをちりばめています。